エーゲ海スケッチ紀行(4) 南アルバニアの環境

専門会員 小 泉 実 Minoru Koizumi

1. サランダ (アルバニア)

イオニア海を北上して、アルバニアのサランダへ入国した。

欧州最貧国と云われるこの国に、いくらか不安を覚えていた。

しかし、下船するやいなや、優しい2人の娘さんに親しみを込めて迎えらる。

私達はバスに乗って、湖がみえかくれする約1時間の道のりの荒野を越えて、古代都市のある所へ向った。

その道中に見られる子供達、家屋、街や村の雰囲気は、50年前の戦後の日本を想いおこさせるものがあった。

国破れて山河ありと言うが、その山河までもが痛々しい。

能力のある人達は、皆、国外に出稼ぎしているそうだ。

アリパサン城を中心にしたローマ時代の古代都市は、湖畔に位置しており、今も発掘中である。

池をとり込んだ劇場空間は、今でもどこかにとり入れたいような、快適空間をうかがわせるものである(図4, 5)。

ガイドのイリナさんは法律を学ぶ女子大生だか、また来て来れるようにと、大きくゆれるバスの中で、一生懸命に手紙を書いた。

経済的に貧しければ、心が豊かになり、経済の発展とともに心が貧しくなるようにも思う。

このすぐあとで訪ねたコルフ島は、アルバニアとは目と鼻の先だが、国境をへだてただけでそこに楽園がみられる。

それだけに、いましがたまで、そまつだが心をこめたハンカチを売る老母や、乞い求めて走り来る少年達のこと、まぶたから消えないでいる。

だが、この国をはなれて半年もたたないうちに、内乱が発生しており、アルバニアのことを想うと胸が痛む。

図1 コルフ島とサラダ周辺

図2 サランダ港

図3 アリパサン城周辺

図4 THE THEATRE OF BUTRINT 水辺の劇場①(サランダ古代都市)

図6 オリーブの巨樹

図5 水辺の劇場②

図7 ケルキラの公園で

2. コルフ島

コルフ島は別名ケルキラ島と言い、ギリシャ領だが、アルバニアのサランダから目の前にある。

島の西海岸からイタリアのカトまで、100kmくらいしかない所にあって、古くよりヴェネチアの影響をうけている。

その街並はとても美しい。

そして、はげ山の多いギリシャにはめずらしく、緑が濃く、オリーブの巨樹が多いのには驚いてしまう。

この樹の1つを描いてみたいと思っていたら、交通混雑でバスがとまり、ちょうど、窓の外に思いどおりの巨樹があったので、大いそぎで一枚描いた。

図8 ケルキラの夕景

絵とは面白いもので、時間がたっぷりあってもうまいかないときがあり、逆においつめられた瞬間に心に残る一枚が仕上がることがあるので不思議だ。

ギリシャの夏は、日射しが焼けつくように照る。

しかし、日影にはいると湿気がないのでとてもしのぎよい。
(次回はイオニア海的环境)